

新興国でのプラットフォーム動向

Google と Facebook が新興国で取組む Wi-Fi 整備や軽量版アプリケーション提供

Google と Facebook の利用者は先進国だけではなく、新興国でも増加しています。今回のレポートでは、その Google と Facebook の新興国での取組みの一端を、インドを例に見てみたいと思います。インドはここ数年経済が好調で、2016 年も 7.1% の経済成長率を達成しました。所得水準の向上もあり、最近では中古品も含めて 30 ドル（約 3390 円）～100 ドル（約 11300 円：1 ドル=113 円で計算¹）程度のスマートフォンが国内で大量に流通しています。そのインドでは、ここ数年で 1 億人以上が初めてインターネットにアクセスできるようになりましたが、それでもまだ人口 13 億人のうち約 3 億人にとどまります。その中で興味深いのは両社が取組む Wi-Fi 整備や軽量アプリケーションの提供です。

○ Google、新興国で無料 Wi-Fi 敷設²

Google のサンダー・ピチャイ CEO は 2015 年 9 月に、インド全土の鉄道駅 400 か所に無料 Wi-Fi を敷設することを発表しました。インド鉄道（Indian Railway）と鉄道向け通信事業者 Railtel が協力し、まずは「2016 年末までに利用者の多い 100 駅に Wi-Fi を敷設する」ことを宣言しました。

2016 年 1 月から敷設が開始され、2016 年 12 月 22 日にインド南部のウダガマンガラム駅で 100 駅目となる無料 Wi-Fi が敷設されました。India Today 紙など地元メディアによると、2017 年 8 月時点で、毎月 650 万人以上が無料 Wi-Fi を利用しています。このような利用拡大をさらに進めるべく、Google はその後、残り 300 駅で無料 Wi-Fi の敷設を進めています。また Google は鉄道駅だけではなく、カフェやショッピングモールなどにも無料 Wi-Fi の敷設を拡大していく計画を明らかにしています。

Google は 2017 年 8 月にインドネシアでも無料 Wi-Fi を敷設していくことを明らかにしています。2018 年中をめどに、ジャワ島とバリ島で無料 Wi-Fi を提供していく予定です。ジャカルタなどの大都市では、既に多くの人々がスマートフォンを所有しており、LTE も普及しています。一方、2 億 5,000 万人以上の人口があるインドネシアでのインターネット普及率はまだ 50% 程度であり、まだまだ開拓の余地は大きいと言えます。

○ 新興国でのスマートフォンの普及と軽量版アプリケーションの提供

このように Wi-Fi のアクセスポイントというインフラの積極的な敷設が行われている新興国において、Facebook の利用者の現状を確認してみましょう。

2017 年 6 月 28 日、Facebook は世界の利用者数が 20 億人を突破したと発表しました。そして

¹ 2017 年 11 月 10 日の為替レート

² Facebook もインドで「Express Wi-Fi」という名称のサービスを 2016 年 8 月から現地の ISP や通信事業者と提携して開始しました。この動きについては、当時、BBC などの海外メディアが、地方部を中心に 125 か所で試験サービスを開始したと報じていました。実際のサービス提供は、2017 年 5 月から開始しています。無料で提供される Google のサービスとは異なり、「Express Wi-Fi」は、各インターネットプロバイダが設定している低料金でのサービスです。

2017年7月にはインドでの利用者が2億4,100万人を突破し、米国を抜いて世界一となりました³。

インドの Facebook 利用者が世界一になった背景の一つに、スマートフォンが大量に普及してきた点があげられます。しかし、そのほとんどが100ドル（約11300円）以下の低価格なスマートフォンで、端末の性能にも制限があります。そこで Facebook では2015年から、どのような性能のスマートフォンでも利用できる軽量版アプリケーション「Facebook Lite」を提供しています。軽量版アプリケーションを提供した効果は大きく、2017年2月には同アプリケーションの利用者が全世界で2億人を突破しました。また、Facebook はメッセンジャーの軽量版アプリケーション「Messenger Lite」を2017年7月から提供開始しました。これもインドでの Facebook 普及に貢献していくのではないかと期待されます。

好調な経済成長に伴いスマートフォンを所有するユーザが増えたことを背景に、Wi-Fi のアクセスポイントの積極的な敷設や端末での快適な利用を可能にする軽量版アプリケーションの提供などの取組みが、インドでの Facebook 利用者の拡大の背景の1つとして挙げられます。

○ 新興国では、まずサービス利用の環境整備から

両社がサービスを増やすためには、利用者にとってサービスを使いやすい環境を整備することが重要です。つまり「誰もがインターネットに接続できる」ことが Google や Facebook の活動にとって必須の環境ということになります。インドにおいて Google は無料 Wi-Fi の提供、Facebook は軽量版のアプリケーションを提供といった形で環境整備を実施していると言えます。

今回はインドに焦点を当てて両社の取組を紹介しました。このような事業を通じ、今後も新興国でのインターネット接続環境が整備され、アクセスが可能となる人口が増加していくと推測されます。インターネット人口の増加はサービス利用者の増加に繋がり、そのため投資がさらに活発化するという好循環が期待できます。インドのように人口規模が大きな新興国は特にその潜在力も大きく、企業にとっては進出先として魅力的な市場になっていると考えられます。

以上

(情報通信総合研究所 佐藤仁)

問い合わせ先：情報通信総合研究所 野口正人 メール：noguti@icr.co.jp 電話：03-3663-7289
--

³ 3位はブラジルで1億3,900万人、4位がインドネシアで1億2,600万人と新興国が上位を占めています。